



特別
2287

女學校發起之趣意書



門 卜 2
號 2287
卷



昭和二十八年
十二月十日
講求

あつたてのあつたて

あつた

あつた

あつた

あつた

あつた

女學校發起之趣意

謹おりの小我

あつた

大津國を北極地を出るまで二十度より四十二度以内の
河の四季の氣候とこの地中金粟多くして水清く甘く
土硬く堅きが故に其水より育れ其氣候を上げて生ずる
美の物なる美の國より是を以て中野を豊草
原乃水穂の國といふ水穂を福穀の穂名より人令乃

かゝる水穂小美びと合ありて御神のあづけ給ふ
そのあつちりて水穂を食くて生育せいよくする人乃は
るんは是亦美づの國り優あまきこと自然しぜんの道理だうりとて是を
大和魂大和心やまとこころともいふなりさればあそ開闢くわいびやくの古より外
國こくに犯かさんする事なくして津日の津つひに絶つぎせども世界せかいの福ふく立
して遠とほく西の國の書しよも傳統でんとうの帝國ていこくと稱なづけたるを
心こころも是をいふことと志こころづけて此二百餘年
神祖かみその津武徳つむとくよりして四海しはい干戈かんかをゆるめれ睦むつと申まをり

東北とうほくのかぎりある外そとが濱なみに生なままゝ一者ひとも西にしのきいある
長崎ながさきの人ひとは後ごにあふの隅すみなる新あらた潟がたに居まをる女をも東南とうなんの端はた
ある熊くま野の浦のの男をとこを夫をとことて美み加かの民たみにかましてし業わざと
安やすんどあらまで昇あが平へいの恩おん澤たくに浴よくする人ひと間ま世よ乃すなはち幸さいひ此
よもなき有りてこと事ことあることやされど治ち平へい長ながく律りつと
時ときを上下じやうげ奢侈しやうぎ遊ゆう情じやうとあることとそたえしあることとそ支し那な
の書しよも見みて昔いふより鴻こう儒にゆの論ろんも所ところるれば雀せき情じやうを以もつて辨べんを
應おこきしあはれとて其その弊へい男子なんしより女子なんしなる不ふ慮りよと然しかる

あはを論ろんず人なきに遺感いこんといふに近頃東都町ちかごろえとの女の
驕あがりふ超過ちやうたしたると、櫛くし并び衣服いふくの花はな負おひつちもさう有あり
者の妻さい妾めかけをとりも自みづかり人の女房にようばう娘むすめも髪かみ結むす
女子むすめ髪かみを結むすを湯屋ゆやの男おとこ小せ簪かんざしを洗あひを前まへ垂たりの紐ひも縮ちぢ
細こをもひ下げ結むすの鼻はな結むすてび織う織うを用もちふ世よの中ちゆうとあり
風俗ふうぞく疎その外が外がゆうくたかりまり大おほきをまじづく新内しんないの
女おんな淨じやう瑠る理りの婦むすめもさうようもさうく事ことどうく女おんな淨じやう瑠る理りの
族やく大おほ勢せい乃の町人まちびとの身み分ぶんして見けん物ぶつ疑ぎを晒さらしを食く死し

人ひとよひくまきを不ふ業ぎやうをとりて事こと流ながせをいひらかふ流しまき
仕し方かたくも根ね本ほんを考かんがへばままのあらうくも元もと来きた太た極ごくの
不ふ業ぎやうをとりて事こと流ながせをいひらかふ流しまき
あも亦またあられまつひてよきみとそんど母はは親おやと二條じやう條じやうのあはを
資せ負おせこがえき物を提たげて親おやを供とも連つれはんと
して市いち中ちゆうを住ゆまいし親子ことも恥ちを恥ちををさるみつり
ふれもも恐おそぶこし親ををあらはまるも又また此こゝをお宿しゆく妓ぎ及よく者もの
化け粧ざうのは方かたをあらわて鼻とえうとをあらわて白粉おしろいをあらわるも宿しゆく妓ぎ及よく者もの

せり是も女等の世よりれはりたる事とて彼もさき床のこ
ろに居るもきこまじ居りて淨瑠璃を居るれはり見ゆ見ゆの
上流しきを好みは者あり兼て顔面を真似て化粧せしもの
なまことそ例みてささきハ様ありていやくさきのさき
素人のふらゆふやせしげある女をどの右の世をより
こゝろの世を清女がしひ一類をささき事ごとく
その女も似氣なる異なる化粧の仕方を好む族もりてさ
まざらざらけきばあふさるぞ元来古等の町藝者おら

場系女などハ世を遊するものありて化粧女も髪を結
はせ湯屋の男も髪を洗つて丸の事をもさき素
人の子らりたる故町と女髪結多出来湯屋の田圃開が
しくさうりり下流空りて濁るときハ逆して上流を濁
るもさくろく右の弊風自然と上りておれが道理
もき武家もさういやくさき風俗の女もさるるさき
事をもさくや又女子の疵といハ琴三味線胡弓鼓笛
古鼓踊等の遊藝もさるる和のやうさき之機織り糸も

事ハいふとさへも物違ものちがひを思ふをさへいふもきやこの
やうふ思ふ風俗ふうぞくとありたり故ゆゑに身上しんかうにお金をさすもの
初はつきより娘むすめの踊おどを思ふを多くの金銭かねせんを費つひやして衣裳いさうた
具ぐもをさへらくのさへひかこの多おほりちとく親おやも俱ともよ
うかもそ付つき垣かきあふよ見みるよきとがき浄瑠璃じやうるり狂言きやうげんを
そ子この踊おどらせ鼻はなの下したをのぞく見み物ものも踊おどのなまわり
ごとく踊おどを思ふも付つき垣かきの志こころあるもちとく思ふは物違ものちが
ふも子供こどもといやもき風俗ふうぞくを仕つかはさるべきのたすきをあらはせ

よそ志こころも年としよりてハ羽はねをさへ舞まちつと色いろもはき被ふき
被こきも亦また生涯しやうまいの用もちきもぐて三味線さんまいせん胡弓こきうハわけわけて淫おん解げ
ある中なかも胡弓こきうハやもく悲かな人の女むすめをまぢのまきわが
よそ素人すねりの娘むすめ子供こどもの弄あそぶもき悉ことごとく琴こともむりハ細こと
いふものむり弾ひぎと聞きくも今いまも長唄ながうたハ板いた置お浄瑠璃じやうるり
合あをて聞きくもきれぬ文句ぶんくを語かたりいひひくもふたうたる人ひと談だん
中なかもきりぞくも才さい一いつ夜や明あり師し道だうといふ力のむりハ門かど身みの
子供こどもの教ま方かた嚴げんくもりも今いまもあやうり嚴げんくもて子供こどもハいふよ

おぼびぞもねくの氣も入らざる故師匠の方より子供の
様嫌をなさるやうにせられば子供の仕度けの爲りそ
ろもを殊ふたの伎藝人等が志爲をまねておぼの浴
衣と浴巾の手拭を深免させ社申上賣りは若て遊山を
催し頭上と造り弄をさせ大勢をむきほめて遊山を
そりか子の多きといふを思ふといたるをど手習師匠の
業ありあつてもき事なれどもを以て風俗のいやくなり
まらざるをあらんき之男子よき師をとり身を備へ道と
おぼそしむれど女としていそぶとの希なる故ふ女の法は
事をあらんきしてたの悪風となりゆく事口惜き次第
あらんきやゆふの我
御國の嘉穀の種よりともを肥培の仕方悪き時は知る
病害をぬくもりあり人も小天地を其母を地あらんば
地性よく肥培の仕方よき時は善人を生じ地性あしく肥
培の仕方よかざる時は悪人を生じたる地自然の道
理なりとせんば

神功皇后を淨懷妊の淨水を以て三韓を伐逐し給ふ
淨武徳はつを給ふも其淨腹より淨誕生すませし
應神帝を八幡宮と崇め奉り我

淨國の武威をもちて給ふ淨神とをなせ給ひけし
朝比奈義秀が勇は母巴由奈の勇をひきお授け時辰の
賢いも母禪尼の賢を禀たる所のふてよく其理をさるべき
事なり胎教として婦人懷妊をれば産る所側ぞ生さるる
聖徳太子の跋せ給へ邪味を食せ給へ左道と履せ給へ割

正しくふんば念せ給へ席のくさきとばせ給へ目よ悪き
父を見む耳よ悪き髪を徳む口よ悪き言を吐さば手よ
悪き書をこもて取らば心よき書を徳む朝ふ起て立居振舞を
正しくまれば生さる子恥容端正して才徳人の勝る事
ゆりおれ胎教をもち給ふ徳ふて人の性と習とゆれば武家
忠孝義勇の子孫を没す事をも授け給へばん抱れ給へ
容より心掛のよき女を撰びて妻とせ給へ事よそ抱み
まおち母の心げゆるんふ交人を出生し長刀ふち刀

爲るにんまのいんまを武人をお産する事と疑ふ町人の
 妻としていんまよき時、實體に我家業を継ぐべき
 子も出生せず江戸子といふ者、身よ持はざる故に
 のまきを其根本母の心をよむ故の事ぞ、後後の
 奥へ初年より奉公し出し、生涯を仕立てし事を頼ふ
 人の事いふを、外へ縁づけんと思ふ、掛の親をハ
 ともふ、古きもの遊藝を習ふ、むさそせ、判あつてきて
 よき子孫の種を前人に欲する、田地ふよむ、肥培の
 仕方、婦人の和らぎ順ひて、自信り、情深く、静かに
 とく女之法を志す、孝人と欲する、よき先物讀を、いんま
 支那の書を讀み、文章がらり、婦人く、女上似、あな
 きやう、源氏物語を、どよみ、見く、学問の志、こふ、り、却て害
 ともあつ、りのを、いんま、唯和、解の女、孝、煙、女、大、学、出、り、種、類
 其外、波、洲、よ、る、ぶ、よ、仮、名、交、り、の、文、章、か、ひ、詩、分、を、いんま
 手、中、と、し、て、手、お、つ、せ、し、ま、を、いんま、や、り、況、聞、く、も、いんま
 一、後、一、又、女、子、の、一、行、儀、を、いんま、あ、つ、き、て、いんま、美、げ、の、慎、ま、り、

後よあれをぶる流りと伊勢流りとちつげのあらも
べー長あき刀やうあら武ぶ藝ぎをと女をあらまらうの高たか村むらのい治ぢ世よのい
似よ家げなきやうふつ人ひともあらぶられど武士しのあらまはらぶれならば
町まち人ひとの子こふても徳後ごのあらま一いつ生なまははらせんと欲もう人ひとからあらぶ
を徳古こさしびき車くるまの奥向むかひの男おとこ子この勤仕しもう者ものあけをとぞ
此こゝれのあらまはらせるをいやしき車くるまのやうふ思おもひて今いまの縫物ぬいもの
さらにせぬ女のあらまはらせる法はしき車くるまをいやしりりに

天子てんしの清后せいこうをいやしりりにぬひしといふ事も
閑かんりならぬ家いえ富とみ人ひと多おほくはらひて物縫ぬい女ををらはらぶ事
あらりとも少しの慰なぐさめもあらまはらせるをいやしりりに
木き綿わたの布子こも容易いよしといふ事も知り得る事
素もとをあらまはらせる事も固かたておりしる事も知り得る事
いふ力ちからのを清せい府ふ内うちあらまはらせる事も知り得る事
の手跡あとをいやしりりにぬひしといふ事も知り得る事
子この教訓しよんあらまはらせる事も知り得る事

中ちやう道理を説示し一規則を厳しうて行儀を
あつけねよし一書より後を毎日かたしく念白をきい
て和分の師類方のあまの師出席してまほしの
儀ををへ一叔物縫ひ機を織り糸をとり糸を揃む事
をしあつ女共を抱置て是亦好く事をおしせぬ法
則を立て教諭し一いづれかひは白糸のかくわれ
自然とよき風ふ深くと悪き風ふと申す子孫の種を
前よふまき回地の肥培の仕うことない事 十日あつて

たより一箇所ちの女学校をたむ志願して中何を編
意を四方の少女の親をよ告り度要んぬつと書きたる
そのはちよろしき事よ申す人達を遠くあつてい
ちの女学校をいもくちのちの女学校をいもくちの
く新ちつたといふもくちのちの女学校をいもくちの
俗を化しつたといふもくちのちの女学校をいもくちの
形くすして大和へ帰り候きの朝日よ白く花もあ
るよやををよがしと申すこと 山橋ありちり

かむらものたを案

天保八年丁酉冬十月

東都西久保

城山 奥邨喜三郎藤原増馳誌